

会議名称	杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務受託者候補者選定委員会（第1回）
日 時	令和7年9月18日（木）午後3時から午後4時30分
場 所	ウェルファーム杉並2階 杉並福祉事務所荻窪事務所 会議室
出席者	委 員 (5名) 独立行政法人労働政策研究・研修機構 主任研究員：高見 具広 社会福祉法人杉並区社会福祉協議会 事務局長：疋田 恵子 公益財団法人杉並区障害者雇用支援事業団 常務理事：白井 教之 区民生活部長：寺井 茂樹 産業振興センター所長：齊藤 俊朗
	事務局 産業振興センター事業担当課長：石野 哲夫 産業振興センター就労・経営支援係長：京谷 哲也 産業振興センター就労・経営支援係：山本 珠子、吉田 雄飛
配付資料	1 次第 資料1 杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務受託者候補者選定委員会委員名簿 資料2 杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務受託者候補者選定委員会実施要領（案） 資料3 評価基準（案） 資料4 評価表（案）
会議次第	1 事務局説明 2 委員会会長及び職務代理者の指名について 3 実施要領（案）について 4 評価基準・審査方法等について 5 今後のスケジュール（予定）

会議の結果及び主要な発言	1 事務局説明 事務局から資料の確認を行った。  2 委員会会長及び職務代理者の指名 ・会長は互選により独立行政法人労働政策研究・研修機構主任研究員 高見委員となった。 ・会長より、職務代理者として社会福祉法人杉並区社会福祉協議会事務局長 疋田委員を指名した。  3 実施要領（案）について 事務局から、実施要領（案）について説明を行い、原案通りの内容で決定した。  4 評価基準・審査方法等について ○主な意見 ・経営状況に関する評価基準にある「賠償責任能力」の判断基準が難しいとの意見があつたため、項目を削除。 ・企画提案に対する評価基準にある「業務の理解度」の評価内容について、「区における現状と課題」にしてしまうと、現在の受託事業者が有利になるのではないかとの意見があつたため、「区における」を削除。  5 今後のスケジュール（予定） 事務局から、審査の日程について説明を行った。
--------------	--

会議名称	杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務受託者候補者選定委員会（第2回）
日 時	令和7年12月5日（金）午後3時から午後4時30分
場 所	産業振興センター 会議室
出席者	委 員 (5名) 独立行政法人労働政策研究・研修機構 主任研究員：高見 具広 社会福祉法人杉並区社会福祉協議会 事務局長：疋田 恵子 公益財団法人杉並区障害者雇用支援事業団 常務理事：白井 教之 区民生活部長：寺井 茂樹 産業振興センター所長：齊藤 俊朗
	事務局 産業振興センター事業担当課長：石野 哲夫 産業振興センター就労・経営支援係長：京谷 哲也 産業振興センター就労・経営支援係主査：藤田 康太郎 産業振興センター就労・経営支援係：山本 珠子
配付資料	1 次第 資料1 財務状況分析報告書 資料2 第二次審査の進め方（案） 資料3 第二次審査の共通質問（案）
会議次第	1 事務局説明 2 第一次審査（書類審査） 3 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）の進め方 4 今後のスケジュール

会議の結果及び主要な発言	1 事務局説明 事務局から資料の確認を行った。  2 第一次審査（書類審査） 各委員の採点の結果、3事業者が配点合計の6割以上の点数であったため、第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）に通過することになった。  3 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）の進め方 事務局から、資料2及び3を基に説明を行い、原案通りの内容で第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）を進めることに決定した。  4 今後のスケジュール（予定） 事務局から、第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）の日程について説明を行った。
--------------	---

会議名称	杉並区就労支援センタージョブトレーニングコーナー運営業務受託者候補者選定委員会（第3回）	
日 時	令和7年12月22日（月）午後3時00分から午後5時45分	
場 所	産業振興センター会議室	
出席者	委 員 (5名)	独立行政法人労働政策研究・研修機構 主任研究員：高見 具広 社会福祉法人杉並区社会福祉協議会 事務局長：疋田 恵子 公益財団法人杉並区障害者雇用支援事業団 常務理事：白井 教之 区民生活部長：寺井 茂樹 産業振興センター所長：齊藤 俊朗
	事務局	産業振興センター事業担当課長：石野 哲夫 産業振興センター就労・経営支援係長：京谷 哲也 産業振興センター就労・経営支援係主査：藤田 康太郎 産業振興センター就労・経営支援係：山本 珠子
配付資料	1 次第 資料1 第二次審査の進め方（委員用） 資料2 共通質問 資料3 事業者配布資料（注意事項・共通質問）	
会議次第	1 事務局説明 2 第二次審査（プレゼンテーション・ヒアリング）、採点 3 第二次審査集計、受託者候補者の決定	

会議の結果及び主要な発言	<p>1 第二次審査の進行について 事務局から第二次審査の進行について説明を行った。 本日、プレゼンテーション・ヒアリングを行い、第一次審査及び第二次審査の各委員の採点結果をもとに本選定委員会の受託者候補者を選定する旨、説明を行った。</p> <p>2 プrezentation・ヒアリング、採点 各事業者に対し、プレゼンテーションと、共通質問を含めたヒアリングを実施し審査を行った。</p> <p>《共通質問》</p> <p>① 責任者を含む従事者の体制を作成したときに、何を考慮しましたか。また、退職・休職等、従事者が不足する場合の対応方法を教えてください。</p> <p>② 就労準備訓練では、利用者の状況に応じた訓練内容の検討が必要ですが、どのような訓練内容が効果的であり、実効性があると考えていますか。</p> <p>③ 社会適応力訓練は、自身の自立を図り、就労準備訓練へのステップアップにつながっていくことを目的としていますが、どのような訓練内容が効果的であり、実効性があると考えていますか。</p> <p>④ 生活自立支援窓口や福祉事務所等の関係機関との連携強化、また、必要に応じて連携先の拡充をどのように図っていきますか。具体的なケースを例示して説明してください。</p> <p>⑤ 個人情報紛失等、有事の場合の対応方法を教えてください。</p> <p>⑥ ひきこもりのような社会とのつながりがない方や、現在、区で活用している広報媒体で情報が行き届かない方など、</p>
--------------	---

会議の結果及び主要な発言	<p>支援を必要としている就労困難者への事業の PR 方法や利用促進、利用者拡大に向けて、効果的だと思う取組を教えてください。</p> <p>(1) A事業者</p> <p>《共通質問に対する回答》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 企業開拓員、精神福祉士を配置するとともに、本社にプロジェクトチームを設置する。従事者が不足した場合は、プロジェクトチームのメンバーを配置する。</li> <li>② 一人ひとりに合った段階的支援が効果的である。また、就労阻害要因を抱えたまま受け入れてくれる企業を開拓することが重要である。</li> <li>③ 生活自立支援から段階的に行っていくことと地域連携が重要と考える。</li> <li>④ 利用者がスムーズに利用できるように、緻密な連携をとる。</li> <li>⑤ 事実確認を行い、個人情報の取り扱いに関する手順書に沿って、対応する。</li> <li>⑥ 関係機関の担当者から参加を促進してもらうことが重要。また、ひきこもり支援団体等と連携し、本人や家族へのアプローチも重要である。</li> </ol> <p>《個別質問に対する回答》 ※「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・杉並区の特徴であるすぎトレとすぎ JOB が分かれていることについて、どう捉えており、どのように連携していくか。 →一体的に同じ場所で行っていることは非常に画期的。連携については、支援対象者調整会議を開催し、支援方法等について、日頃から連携しながら、対象者が段階的に進んでいける支援を行っていきたい。</li> <li>・すぎトレとすぎ JOB を一緒にやった方がいいか、分かれていることによるメリット等、見解を教えてほしい。 →今の杉並区の事業の全体図は非常に精緻であると考える。一方で、支援機関が変わるとその環境に順応できない対象者も多く含まれている可能性があり、一つの機関が次のステップに行くまで支援を行うことも重要であると考えるため、全体をパッケージでやるのも一つの選択肢であると思う。</li> <li>・本事業のプロジェクトチームは、新規で設置するのか。 →杉並区専門の新規チームを設置する。</li> <li>・バックアップ体制について教えてほしい。 →プロジェクトチームのメンバーが現場に入る。</li> <li>・欠員等があった場合は、本部にいる人材で対応するという理解でよいか。また、現在受託している他の事業でも同様の対応を取っているのか。 →そうである。</li> <li>・社会適応力訓練について、就職準備性を整えるために、どのようなステップを踏み、訓練を実施するのが効果的だと考えているか。 →生活自立支援、社会自立支援ともに、状況を見て改善しながら、次のステップに進む段階的支援が重要。</li> <li>・関係機関との連携について、区切れの場面での連携は支援者にとっても難しいと思うが、意見が異なった場合、どのようにすり合わせて支援を行うか。 →対象者の自立に向けて、関係機関と最終地点を確認し、それぞれの役割や特徴を踏まえ、意見交換しながら支援を進めていきたい。杉並区も入り、関係機関の意見を統合していくことが重要である。</li> </ul>

## (2) B 事業者

### 《共通質問に対する回答》

- ① 他のチームの非常勤職員に応援で入ってもらう、ジョブトレーニングコーナーで勤務する非常勤職員に追加で出勤してもらうことを考えている。
- ② オーダーメイドでそれぞれの訓練生に合わせた支援を進めていく必要がある。
- ③ 一人ひとりの特性に合うステップを用意するのが効果的である。
- ④ 定期的に関係機関に話を聞かせてもらう。また、情報共有で連携を深め、解決策を見出す。
- ⑤ 個人情報の紛失があった場合は、当社のマニュアルに沿って対応する。
- ⑥ 本部のひきこもり等に特化したチームや関係機関と連携して、保護者の方を通じて、利用に促す。

### 《個別質問に対する回答》 ※「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す

・非営利活動法人の強みは何だと考えているか。

→事業運営の考え方が営利目的ではないため、事業撤退の可能性が営利企業より低い点が強みだと考える。

企業の場合、営利が目的であるため、儲からない事業は撤退の可能性があると思われる。

・本部からのバックアップの点や、事業者の開拓の面で、現場として感じている点を教えてほしい。

→本部のリソースは非常に多いと感じている。企業開拓チームもあり、必要に応じて対応している。

・リアルな仕事の仕方を開拓していくという話があった一方で、インターン先の約8割がすぎの農園となっている実績について、どのように考えているか。

→すぎの農園は、利用者のニーズが非常に高い訓練先である一方で、仕事として受け入れてもらえる農家が少ない点は悩ましいと考えている。

・様々な職種の体験と仕事の基礎作りは別物と考えているという理解でよいか。

→そうである。訓練を通じて一步踏み出すためにどのような経験が有効かという考え方のもと、就労先とは別物として事業所訓練を用意している。

・現在のKPIの数字をどう捉えているか。

→他の受託事業でも、同程度の数字で推移していたため、悪い数字ではない。

・杉並区の特徴であるすぎトレとすぎJOBが分かれしており、すぎトレがトレーニングに特化している良さをどのように考えるか。

→働くことに不安が強い方にとって、働くと訓練とでは隔たりを感じるため、手前を充実させるということで、ジョブトレーニングがあると考える。年間の就職者数の目標設定がないため、本人のペースに合った「就労に向けたい変化」に注力できることが、分かれているメリットと考える。

・定着支援は、どのくらい行っているか。また、就労後の雇用先とのトラブルがあった場合の対応について教えてほしい。

→就労後の活動は、基本的にすぎJOBがメインになるが、すぎトレの支援員と話したいという利用者もいる。すぎトレにおける定着支援は、2~3ヶ月程度行うが、利用者の状況に応じて、適宜判断していく。

## (3) C 事業者

### 《共通質問に対する回答》

- ① 就労支援と福祉関係の経験者と有資格者を配置した。また、責任者はマネジメントスキルと関係機関と円滑に連携が取れる者を選任した。支援員の不足は、責任者及び本社のバックアップ要員が対応する。
- ② 支援員及び責任者が、対象者の状況の見立てをしっかり行い、支援することが重要。訓練内容は、パソコン関係の講座を多めに設定し、そのほかに企業の研修や説明会を行い、できるだけ働くイメージを沸かせ、就職活動に向かえる形を作っていく。
- ③ 時間管理、体調管理等が必要と考える。
- ④ ケースワーカーや支援員と調整の会議等を開催し、共有を行い、個人個人にあったプログラム運営につなげていく。すぎトレとすぎJOBを連携することで、対象者の立場に立って力添えすることができる。
- ⑤ 60分以内に現場から責任者及び本部に報告し、本部から杉並区に報告し、対応方法を相談する。
- ⑥ 家族への支援が重要である。PR方法は、区広報紙やチラシ配架が効果的。

《個別質問に対する回答》※「・」は委員の発言、「→」は事業者の回答を示す

・企画提案書の現状と課題の「接続の難しさ」に至った理由と背景は何か。また、どのような方策に結びついていくのか教えてほしい。

→他自治体でも類似の事業を受託しているが、利用者から複数窓口があって分かりづらいなどの声をもらい、関係機関との接続の難しさを痛感したことが背景にある。解決策は、連携先やリファー先の事業を理解し、徐々に解決していくことが重要と考える。

## 会議の結果及び主要な発言

・一体化は、すぎトレとすぎJOBのほかに、福祉分野の就労支援とも一体化することが望ましいと考えるか。

→一体化して支援したほうが、よりよい支援を行えると考える。

・「働く喜びを生きる喜びに」という言葉の意図は。

→最終的に就労に結びついたときに、働く喜びや、お金を稼ぎ、生きる喜びを見出せることが、本人の自信になるから。

・すぎトレとすぎJOBの一本化の提案をされているが、それぞれが分かれているのが杉並区の特徴であると考えるが、分かれている強みは何だと考えているか。

→生活自立と社会自立がすぎトレ、就労自立がすぎJOBで分かれていることに強みがあるので、それを一体化するとさらに強みになると考える。

・退職率が低いのは、就労先開拓の強みなのか、利用者への強みなのか。もう少し詳しく教えてほしい。

→定着支援を重視している。就労された利用者には、半年から1年後までは定期的に就労先での状況を本人や就労先と面談し、定着させていく。

・就労阻害要因ごとの支援の記載があるが、支援のポイントがあれば教えてほしい。

→基本的には、特別扱いをせず、他の人と変わらない同一の対応、支援をすることが重要である。

・企画提案書の具体的な退職率は、定着支援を行っている結果なのか。

→長期的なサポートをした結果である。

### 3 審査、受託者候補者の決定

各委員の採点終了後、集計結果を示し、審査を行った。

委員の審査結果について、配点合計に対する評価点の合計が6割以上かつ最上位であるB事業者を、受託者候補者として決定した。